

製品名: リン酸化 TAOK1/2/3(S181+S181+S177)ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号:** AMRe84763

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:200
分子量	Calculated MW: 116 kDa ; Observed MW: 110,130,140 kDa

抗原情報

遺伝子名	Phospho-TAOK1/2/3(S181+S181+S177)
別名	TAOK1; TAOK2; TAOK3;;p-TAOK 1/2/3 (S181/S181/S177)
遺伝子 ID	
SwissProt ID	Q7L7X3/Q9UL54/Q9H2K8
免疫原	ヒト TAOK 1/2/3 の S181/S181/S177 リン酸化部位近傍に由来する合成ペプチド

背景

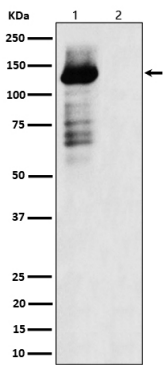
セリン/スレオニンタンパク質キナーゼは、p38/MAPK14 ストレス活性化 MAPK カスケード、DNA 損傷応答、細胞骨格安定性の調節

など、様々なプロセスに関与する。MAP2K3、MAP2K6、MARK2 をリン酸化。上流の MAP2K3 および MAP2K6 キナーゼのリン酸化と活性化を媒介することにより、p38/MAPK14 ストレス活性化 MAPK カスケードの活性化因子として作用する。G タンパク質共役受容体を介した p38/MAPK14 へのシグナル伝達にも関与する。

研究分野

-

画像データ



(1) 293 細胞溶解物、(2) ラムダホスファターゼ溶解物で処理した 293 細胞における Phospho-TAOK1/2/3 (S181 + S181 + S177)発現のウエスタンブロット解析。